**指導者用デジタル教科書（教材）**

**音声テキスト**

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。



目次

[P. 11　歌声1 2](#_Toc76740199)

[P. 32　和音の音でづくり 2](#_Toc76740200)

[和音と低音 2](#_Toc76740201)

[学習活動1 2](#_Toc76740202)

[学習活動2 2](#_Toc76740203)

[P. 37　のまねをしてみよう 3](#_Toc76740204)

[P. 76　オーケストラの主な楽器 4](#_Toc76740205)

[フルート 4](#_Toc76740206)

[オーボエ 4](#_Toc76740207)

[クラリネット 4](#_Toc76740208)

[ファゴット 4](#_Toc76740209)

[トランペット 4](#_Toc76740210)

[ホルン 4](#_Toc76740211)

[トロンボーン 4](#_Toc76740212)

[チューバ 4](#_Toc76740213)

[バイオリン 4](#_Toc76740214)

[ビオラ 4](#_Toc76740215)

[チェロ 4](#_Toc76740216)

[コントラバス 4](#_Toc76740217)

[ティンパニ 4](#_Toc76740218)

[シンバル 4](#_Toc76740219)

[P. 78, 79　日本の古典芸能 5](#_Toc76740220)

[笛 5](#_Toc76740221)

[5](#_Toc76740222)

[6](#_Toc76740223)

[6](#_Toc76740224)

[7](#_Toc76740225)

[7](#_Toc76740226)

[7](#_Toc76740227)

# P. 11　歌声1

「明日という大空」では、高い音から低い音へ、音が飛んでいるところが、いくつかあります。の音の動きが上下していると、こんな感じになりやすいですね。

鼻の付け根から目のあたりに、ひびきをひびかせるようにしてみましょう。美しいひびきになりますよ。

# P. 32　和音の音でづくり

## 和音と低音

最初に、画面のの和音と低音をきいて、ひびきの移り変わりを確かめましょう。

## 学習活動1

次に、画面に表示されている、和音にふくまれる音を、左から順に、一つずつ選び、をつくります。音の上がり下がりを考えながら、音を選んでつくりましょう。

「はこんな音の動きのをつくりました。」

## 学習活動2

今度は、をつくるリズムの、２分のリズムを変えて、つくってみましょう。２分は、４分や８分などを使って、このように、２分と同じ長さのリズムに、変えることができます。

「のんびりとしたにするために、音の高さがあまり変わらないようにして、リズムも２分と４分を使いました。」

# P. 37　のまねをしてみよう

は、速度を示したり、音楽の始まりや終わりのタイミングを合わせたりするなどのを持っています。さらに、する音楽のや、強弱の表情を者に伝えて、表現を豊かにするという、大切なも持っています。これは、２のの例です。「ハンガリー舞曲 第５番」は４分の２でできています。音楽をよくききながら、強さや速さの変化に合わせて、のまねをしてみましょう。

１の位置を、はっきりと分かるように示すことが、大切なポイントです。

# P. 76　オーケストラの主な楽器

## フルート

これは、フルートです。

## オーボエ

これは、オーボエです。

## クラリネット

これは、クラリネットです。

## ファゴット

これは、ファゴットです。

## トランペット

これは、トランペットです。

## ホルン

これは、ホルンです。

## トロンボーン

これは、トロンボーンです。

## チューバ

これは、チューバです。

## バイオリン

これは、バイオリンです。

## ビオラ

これは、ビオラです。

## チェロ

これは、チェロです。

## コントラバス

これは、コントラバスです。

## ティンパニ

これは、ティンパニです。

## シンバル

これは、シンバルです。

# P. 78, 79　日本の古典芸能

## 笛

これは、笛です。日本の笛にはさまざまな種類があり、能で用いられる笛のことを、「」といいます。笛は、このように構えます。能ので用いられる４つの楽器のことを、「」といいますが、能のでは、笛もをなめらかにふくのではなく、リズムを打つようにします。は、このあたりに「」とばれる細い管が入っているため、管の内径が細くなっており、独特なになっています。

これは、です。は、打ち方や「」とばれるひものにぎり具合を変えて、音を出します。は、このように構えます。打つ音とかけ声を組み合わせてします。

これは、「チ」です。をにぎったまま、薬指で打ちます。

これは、「タ」です。をにぎったまま、薬指と中指で打ちます。

これは、「プ」です。人さし指で打ち、打ったしゅん間にをにぎってはなします。

これは、「ポ」です。全ての指で打ち、打ったしゅん間にをにぎってはなします。

これは、です。より一回り大きく、かん高くひびく音がです。は、このように構えます。打つ音とかけ声を組み合わせてします。を打つときには、大きな音が出るように、右手の中指と薬指に、「」をはめます。また、手を保護するために、「あて皮」をします。

これは、「ドン」です。小さく打ちます。

これは、「チョン」です。大きく打ちます。

これは、です。両面の皮をひもでしめた、「」です。このようなの台に楽器をかけて、ゆかにすえます。２本ので、音を出します。は、このように構えます。打つ音とかけ声を組み合わせてします。

これは、「バチ」です。大きな音で打ちます。

これは、「バチ」です。中ぐらいの音で打ちます。

これは、「バチ」です。左手に持ったを、右かたにいで打ちます。

これは、「ミ」です。で皮をおさえて、音をひびかせずに打ちます。

これは、です。の音楽として生まれた、「」などでされます。のは、が太くてが大きく、は、このような形をしています。音が低く、豊かなひびきがです。

のをきこう。

これは、です。の音楽として生まれた、「」などでされます。のは、「」のに比べると、が細く、にはられた皮もうすめで、は、このような形をしています。するどく、歯切れのよい音色がです。

のをきこう。

の音楽は、王国のでされていた音楽が、元になっています。をひきながら歌う、「」を中心に、笛やなどでします。の原型とされる楽器は、中国から伝えられました。王国の時代、は、氏族の男子など、限られた人たちがをしていましたが、現在では、多くの人たちに親しまれ、沖縄の音楽を代表する楽器となっています。のの部分は、沖縄の言葉で「ソー」、の部分は、「チーガ」といいます。に比べて、ソーは長さが短く、チーガも小さめです。またチーガには、ニシキヘビの皮が、張られています。温かみのある、柔らかい音色がです。

のをきこう。